

これまでの検討内容のまとめ「公立保育園」

No.	分類	意見	現状	実現に向けて
1	施設・設備	冬の寒さ対策として、未満児室には床暖房の完備が望ましい。	全ての部屋に冷暖房を完備しているが、床暖房を導入している公立園はない。	未満児の保育に適した環境の整備が必要。
2	施設・設備	園舎の老朽化による耐震性や安全性への不安。安心して子どもを預けることができる環境において保育を実施することが望ましい。	耐震診断及び改修は行っているが、築50年を超える園舎もあり、老朽化への不安は残る。	安全性の確保のための改修は必須。状態によっては大規模改修が必要。
3	施設・設備	遊具に関しては、老朽化に加えて、未満児向けの遊具の不足を感じる。また、危険回避のためにも、未満児専用エリアの必要性をは大きい。	遊具については、毎年専門業者による遊具点検を行っているが、公立保育園は3歳以上児の保育のために作られた施設のため、未満児用の遊具が備わっていない。近隣では、木島平村のおひさま保育園が、このような環境を整えており、同水準の保育園を望む声が多い。	<u>老朽化や規格非該当などの遊具は、順次更新が必要。</u> <u>また、安全な保育および発達促進のためにも、未満児に適した遊具の設置や専用エリアの確保は必要。</u>
4	保育の質	少子化によって園児が減ったことにより、異年齢の混合クラスが増えている。混合保育にもメリットはあるが、この時期の成長において1歳の差はとても大きい。年齢に適した保育を望む。 少人数保育も悪くはないが、子どもは、保育士とではなく、子ども同士の間で成長する。その機会を十分に提供するためには、ある程度の人数が必要。	部屋数が足りないため、0～1歳児は混合の園が多い。小規模な保育園では、3歳以上児も20人を目安に混合保育としている。理由としては、保育士不足の問題もあるが、毎日少人数の活動では、ある程度の人数を必要とする遊びができず、活動に制限が加わるが、人数が多くなることにより、子ども同士の社会性を学ぶ場を提供できるため。	<u>子どもの健やかな成長や、子どもの個性を生かした保育のためには、年齢ごと、一定程度の人数のクラス配置が望ましい。</u> また、クラス間の交流を計画的に実施することで、年齢を超えた関りを学ぶなど、年齢にあった心身の発達を促していく。
5	保育の質	全国的に保育士不足が問題となっているが、養成校への進学人数も減っていると聞いている。今後の保育士確保が心配。	正規職員は、R6に6名採用。R7には2名採用予定。保育士を国の基準より手厚い配置を行うため、会計年度任用職員を通年募集しているが、採用希望者は少ない。	<u>現役の保育士が、やりがいをもって生き生きと、楽しそうに働く姿が、未来の保育士を生み出すきっかけとなり得る。</u> 保育士の働く環境や処遇改善が重要。
6	保育の質	保育士が生き生きと働ける環境が大切。命を守ることで精いっぱいな状態では、不適切保育につながりかねない。保育士の働きやすさが保育士のモチベーションにもつながり、子どもの健全な成長のためには不可欠。	配置基準に基づき、適正な人員配置を行っている。クラス担当には正規職員が配置され、職員が休みやすいよう全園にフリー保育士を配置している。	<u>保育士を安定的に確保し、ゆとりある職員配置により、複数担任の配置や加配保育士の充実し、より安全で質の高い保育につながる。</u>
7	保育の質	コロナによりイベントや行事が縮小されたが、コロナが5類になっても縮小されたまま戻らないので、いろんな事業を早く復活させてほしい。	5類にはなったが、感染した時の症状が軽くなったわけではないため、子どもを預かる福祉施設として感染を回避する対策は必須。その反面、感染症がなくなることも見込めないため、実施可能なことを増やしていく工夫も必要。	<u>感染予防は欠かせないが、日中おうちの方と離れて過ごす子どもたちが、毎日どんな園生活を送っていて、毎日ちょっとずつ成長し、いつのまにかこんなに成長したことを実感していただく機会も大切。</u> 園ごとに規模や環境が異なるため、市内統一ではなく、園の個性を生かした取り組みを進めていく。
8	少子化	このまま少子化が進むと、小さい園が閉園したり、保育園の再編成が必要になってくると思われるが、小規模園には地域性や親しみやすさなどの魅力があり、大規模園だと保育士の目が行き届かないのではという不安もある。	近所の方や地域の方には、いつも保育園を気にかけていただいている。とてもかわいがっていただいていることに感謝し、大切にしていきたいと感じている。また、園児数が少ないと保育士の目は届きやすいが、異年齢の子と一緒に活動しているため、子どもの活動が制限されてしまう場合もある。	<u>大規模園になった場合、園やクラスの人数は増えるが、職員配置も手厚くなるため、活動内容や保育の質は向上すると思われる。</u> どちらの場合も、メリットとデメリットは混在し、子どもも保護者も、個々の価値観が異なることから、一律にどちらが良いという判断は難しい。ただ、どのような場合であっても、地域と保育園とのつながりやそれぞれの思いが、距離によって薄れることのない関係性の構築が大切。

No.	分類	意見	現状	実現に向けて
9	少子化	近くの園に通えるといいが、保育園の再編成などにより通園距離が遠くなることによる通園方法（通園バスなど）が心配。	過去の保育園統合の際は、送迎距離が遠くなるご家庭に、通園補助金やバスの運行などで対応した。現在は、自宅からの距離に関わらず、通勤場所や家族構成などを総合的に見た利便性から園を選ぶ場合が多いため、遠くの園へ送迎している方との公平性が懸念される。	保育園は、保護者が選んだ園に通うことが出来る仕組みのため、どこに住んでいても、どの園に通っても、公平な支援を受けることができるよう、通園補助やバスの制度の見直しが必要。
10	少子化	保育園が再編成されて人数が集約されると、年齢ごとのクラス配置が可能となり、子どもの活動（保育の内容）の幅が広がることへの期待が大きい。また、手厚い人員配置が可能となることで、より質の高い保育へとつながることを望む。	No.4と同じ	No.4と同じ
11	保育士不足	転入や就職などによる途中入所の場合でも、希望の園に入園できるように対応を望む。	新年度の入所については、全ての園児が第1希望の園に入所できるよう職員配置をしており、途中入所に関しても、希望に添えるよう調整しているが、保育士不足により保育士の補充が困難。第1希望の園に空きがない場合は、他の園をご案内している。	安定的な保育士確保のため、働きやすい環境や処遇改善が必要。
12	周知・広報	妊娠中であっても、次年度の新規入園申込ができることを知らずに、年度途中での申し込みとなる方がいる。	妊娠中であっても申し込みが可能であることは、母子手帳交付の際に周知している。	案内チラシの見直しや周知方法の改善が必要。
13	ICT	連絡帳やお便り、申請手続きなどが電子化すると便利。「すぐー」で送られてくる情報は、文字ばかりで面白みがないため、印象に残らない。	私立保育園・幼稚園では既に専用アプリを導入しているが、公立園での導入は難しい。	「すぐー」による情報発信について、見せ方の工夫や内容の充実化を目指す。また機能をフルに活用し、申請手続き等の負担軽減を図る。
14	ICT	土曜1日保育、休日保育、病後児保育を利用の際、手続きなどが大変で利用に至らない。利用しやすくなるといい。	利用にあたっては、最初に利用登録と、実際に使用する際の利用申請が必要。普段通っている園ではなく、他園の利用となるため、本人であることの確認や注意事項などの引継ぎを伴うため、一定の手続きは避けられない。	回復期ではあるが、万全ではない状態でお預かりするために必要な手続きであることの理解を深めていく。また、電子申請等による手続きの簡略化を進める。
15	保育二ーズ	土曜一日、休日保育の利用にあたり、お弁当や布団を持参するなど、利用の際の保護者負担が大きい。休日保育は別料金が発生するが、親が在宅の平日に園を休むため、保育料の範囲で利用できるようにしてほしい。	土日は給食の提供がないためお弁当を持参している。布団の持参については、園に預けておくことも可能。休日は休園日のため、休日の利用には別途料金がかかる設定となっている。	申請手続きは、電子申請による簡略化を進める。土日も通常保育を実施することにより、多様なライフスタイルに対応することが可能となるが、運用可能な保育士の確保が必要。
16	給食	3歳以上児は、毎日白米を持参しているが、朝はパン食の家庭が増えているため、白米も保育園で提供してほしい。子どもの健康のため、保育園の給食には、オーガニック食材を使用して欲しい。	完全給食、給食費無償化を目指し、お試し炊飯を実施中。オーガニック食材で給食を賄うことは難しいが、3歳未満児の主食には市内産コシヒカリを使用している。	全園において自園炊飯を実施し、給食費の完全無償化を目指す。美味しいお米で炊きたての温かいご飯の提供。低農薬食材などのお試し利用の検討が必要。
17	子育て支援	3歳以上児は保育料が無償化したが、子育てにかかる費用負担は大きい。ため、未満児の保育料も無償化して欲しい。	R6から、未満児についても第2子半額となっている。	子育てにかかる費用の負担軽減の公平性から、保育料の軽減を図ると同時に、保育園に預けずにおうちで育児をしている家庭への支援も必要。従来の支援制度を見直し、時代に合った支援制度の構築が必要。
18	子育て支援	木島平村のおひさま保育園は、子育て支援センターや病後児保育が併設されており、看護師や管理栄養士が常駐し、午前のおやつも手作りで対応している。未満児と以上児の保育空間も分けられ、環境がとても整っている。	おひさま保育園は、統合したからこそ実現できた良い環境であり、飯山市が現状同ような水準を目指すのは難しい。	閉校になる小学校跡地などの未利用施設を活用した子育て支援拠点の整備や多機能型保育施設の検討。（例）ハブリック、おひさま保育園